

日本ペットアンドアニマル専門学校

2023 年度学校関係者評価 報告書

日本ペットアンドアニマル専門学校は、学校関係者により自己評価結果を評価することでその客観性を高め、委員から助言を得ることで学校運営の継続的な改善を図ることを目的とし、「2023 年度自己点検・自己評価報告書」の結果を基に学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告する。

1. 学校関係者評価委員会の開催日時

2024 年 5 月 30 日(火)14:30~16:00 (本校 1 階教室にて)

2. 学校関係者評価委員

秋山 哲郎	株式会社アビスポーツ 代表取締役
齋藤 忍	獅子浜ダイビングスクール 代表取締役
森 由民	動物園ライター 兼任講師
鈴木 輝康	元東京都衛生局職員

事務局

伊藤 宗治	日本ペットアンドアニマル専門学校 校長
安保 和美	日本ペットアンドアニマル専門学校 教務
高野 碧斗	日本ペットアンドアニマル専門学校 教務
酒井 都	日本ペットアンドアニマル専門学校 事務局

3. 評価領域ごとの学校関係者評価・意見及び提案

(1). 今年度の取組状況

学校運営の改善のために授業等の調整を行った。結果、生徒・教職員としては不十分さがあった。教職員が活気を持てるような環境の見直しを行うことが、全てに作用することと考える。

(2). 教育理念・目標

- オープンキャンパスや外部でのガイダンスで教育理念・目標・育成する人材像を周知した。
- 人間関係の構築に向けて、基本となるコミュニケーション力や周りへの気づきを向上させるために努力している。

(3). 学校運営

- 大きな問題はない。
- 委員を通して、定期的に情報が共有され、スケジュールに沿って学校業務を行うことができるようになった。
- 学校全体で個人情報の漏洩防止また、インターンシップ先や外部実習など訪問地での情報漏洩などにも危機管理として取り組んで

(4). 教育活動

- 基準に基づき適切に教育課程が作られており、教育活動も適切に行われている。
- 現場で求められる人材像の変化に対応するカリキュラム創意工夫するように引き続き努めてほしい。
- 必要な知識と技術を身につける前提に、本人の勉学に対する動機づけなどがあると思われるため、その仕組みの検討も引き続き行なってほしい。

(5). 学修成果

- 実習終了後の報告会などで、個々の実習目標に関する成果発表の機会を設け、自ら検証しステップアップできるような機会を増やした。
- 資格・検定取得の成果を学校の強みとして謳えるように、引き続きしっかりと進めてほしい。
- 学生のモチベーションを上げる仕掛けとして、成績優秀者を表彰することも効果的である。

(6). 学生支援

- 学生に寄り添った面談・相談等が適宜行われていると感じる。
- 学生の多くは、学校求人により就職活動を行なっていることから、学生自身も求人確保・開拓できるような行動力に繋がる支援の必要性も感じる。

(7). 教育環境

- 必要な施設・設備については整備し、定期点検を行っている。校舎、設備の老朽化により、修繕が発生することもあるが、都度、適切に対応している。
- インターンシップ専攻性のフォロー体制強化のため、関係者による情報共有と一層の連携が引き続き望まれる。
- 実習の評価は各学科それぞれの基準等により適正に行っている。実習指導者との懇談、意見交換も各学科の実情に応じて適正に行っている。

(8). 学生の受け入れ募集

- 学生に寄り添い就職に繋げることを掲げ募集活動を行っており、高校ガイダンス等で教育活動、将来像、就職実績とその支援体制を中心に情報提供を行っている。
- 進路説明会、模擬授業等、様々な形態の説明会に参加して情報を提供している。

(9). 財務

- 大きな問題なく運営されている。
- 収支状況については、法人本部が適切に管理している。

(10). 法令等の遵守

- 本校は、教育基本法、学校教育法、専修学校設置基準を基本に、設置学科に適用される法律等をはじめ、関係する諸法令を遵守し、適正な運営をしている。
- 本校は、個人情報保護に対する基本方針に基づき、学校法人全体の取組として個人情報をはじめとした各種情報の保護を行っており、部署、部門毎に漏れのないよう取り組んでいる。

(11). 社会貢献・地域貢献

- 本校の教育資源を利用した社会貢献、地域交流では、地元警察の各種キャンペーン活動なども協力している。
- ボランティア活動は、社会で学ぶ有効な学習活動であるので、今後も継続して取り組んでほしい。

以上。